

1 単元名 お茶中ブックカフェⅡ～文学作品の魅力を引き出す読書会～

2 単元のねらい

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
目標	文学作品の魅力を引き出し合う読書会の対話の場づくりに積極的に参加しようとすることができる。	文学作品の魅力を引き出す「目の付けどころ」(観点)を意識し、作品をとらえる目(鑑賞力)を養うことができる。	文学作品の表現の魅力を味わい、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
評価規準	読書会で他の人の感想を丁寧に聞き出し、それを楽しんでいる。他の感想に触れることでお互いの読みを深めあっている。	読書会の交流を通して、文学作品を捉える観点が増え、作品全体をより繊細に解釈できるようになっている。	作品中の表現の特徴に気づき、それを自分の感想に活かしている。

これまで生徒たちは文学作品を味わう様々な方法を学んできた。「語り手」「登場人物の人物像」「伏線」などの学習用語はもとより、「感情移入する」「疑問を持つ」「意図を考える」などの方略も学習した。無意識に活用していることが多いそれらの方略の存在に意識を向け、総合的に活用する機会を作るために、昨年度は、好きな作品、メンバーで楽しく読みあうブックカフェ（読書会）をはじめて行った。本単元はこの1年時の学習を発展させ、様々な方略を活用しながら読み深めるとともに、文学作品とともに語らい、味わうという対話の場づくりに意識を向けた取り組みをこの単元で設定する。そして3年時には古典やノンフィクションなど、よりジャンルを広げた読書会の実践を構想している。

良い読者、すぐれた読者は、どんな作品であっても作品の良さを見つけだし、味わうことができる。それは多くの読書経験から「作品を見る目」を獲得し、良さを引き出す「目の付けどころ」を知っているからであろう。本単元では、一冊の本を読み、グループで語り合うという対話の場の力によって、多様な読み手と交流し合い、様々な「目の付けどころ」(観点)を知り、「作品を見る目」(鑑賞力)を養うことをねらいとしている。さらに、本を読み合うことで、他者を知り、社会、世界とつながる「読書コミュニティ」の形成に積極的に参加していく態度も育てていきたい。

3 授業づくりの工夫

読書会を授業で実施するためには、課題本の選定、グループ編成、読むプロセスの支援、読書会で取り上げるテーマの選択、実際の読書会の運営など、様々な検討すべき問題がある。

まず、課題本については、学校司書と協働で、生徒の読む力や興味関心を勘案して、8タイトル、各20冊を準備した。それを生徒に希望をとり、読む力、話し合う力などのバランスを考慮しつつ4名程度となるようにグループ分けをした。次に、読むプロセスの支援としては、1年時に学習した読む方略「文学作品を味わう方法」や、「文学的文章の学習用語」を再度確認し、葉に印刷して読書中に目に触れられるようにした。さらには、毎時間、読み進めながら「今日のはまり」（自分が心惹かれたこと）や「気になった言葉」を「1枚ポートフォリオ」に記録していくようにさせた。読書会の話題については、他のメンバーに聞いてみたいこと、作品の理解を深めるために考えてみたいことを「問い」や「テーマ」の形で吟味させるとともに、授業者や、他クラスで同じ本を読んだメンバーが勧めるテーマなども「置き手紙」（後述）として読書会中に提示し参考させた。

読書会は2時間行う。交流の趣旨は、1回目は「この本を君はどう読んだ?」、2回目を「この作品の魅力とは?」とした。1回目では緩やかな感想交流を、2回目は作品全体の鑑賞、評価に意識を向けていく。グループごとに司会者、記録者を輪番で決めて進行していくが、自分たちで交流を効果的に進めていくことができるように、円滑にファシリテートするための「司会の切り札」や、話題に詰まったときのための「面白く読むワザ」というヒントカードを各テーブルに用意しておき、必要に応じて参照させる。また、1時間のうち、途中でインターバルを置き、交流の様子を振り返るとともに、他のクラスが書いた「置き手紙」を参考にし、さらに交流を深めていくようにする。

読書会を終えたら、同じ本を読んだ他クラスのグループに向けて「置き手紙」を書く。その手紙には「こういうテーマで交流し、こんな考えが出て深めることができた。君たちもこの続きを考えてみない?」という内容を書いていく。これは、他のグループへアドバイスするという趣旨で書かれるが、自分たちの話合いの深まりぐあいを振り返るといった機能も持っている。このような仕掛けで、クラスを超えて「深い読み」へと導いていくようにしていきたい。

本単元の読書会で発見することのできた作品の面白さや、その面白さを引き出した読み方、目の付けどころは、単元の最後にふり返り、日常の読書へとつなげていくようにしていきたい。

《コミュニケーション・デザイン科との関連》

CD科では「対話・協働」の領域の中に「互いの立場や考え方を尊重し、建設的で穏やかな対話の場を作るうえで大切なことを考えること」という指導事項がある。この指導事項に関連する基礎的な知識や技能を指導

し、学習者に発揮させる機会として、この授業での交流を位置づけた。

たとえば、対話の場をつくるために、司会者として具体的なファシリテートの技術を学んでいくこと、参加者として対話の場をつくる一員として、話合いの目的や読みの深まりを意識しながら、自分と異なる他者の読みを積極的に引き出し、つなぎ合わせていく関わりを学んでいくことなどが考えられる。国語科で学んだ知識や技能は、CD科の学習活動の中で活用していくことになるだろう。

4 単元の展開（全9時間）

第1次（1～3時）作品を下読みする。

「今日のはまり」や「気になった言葉」を意識しながら読む。

（この間秋休み。読み終わっていない場合は読んでおく）

第2次（4～6時）読書会に向けての準備

作品の内容（設定・登場人物・鍵となる出来事）を確認する。

グループで話し合いたいテーマ、問いを考える。

第3次（7・8時）第一回読書会「君はこの本をどう読んだ？」（本時）

第二回読書会「この作品の魅力とは？」

第4次（9時）読書会で話し合ったことを参考にレポートを書く。

「（課題本）を読んで考えたこと」・「（課題本）の面白さ・魅力とは」

5 本時の学習

（1）本時の目標

読書会の対話の場づくりに積極的に参加し、お互いの読みを深め合うことができる。

（2）本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮／【CD科との関連】
課題設定	○第一回読書会の趣旨について理解する。 「君はこの本をどう読んだ？」がテーマ。 ・他者の読みを傾聴し、引き出しあう ・お互いが感想を言いやすく、かつ深めあう対話の場をつくる。	・前もって課題本のグループごとに座っておく。 ・休み時間のうちに、最初の司会・記録者を決めておく。
課題追究	○各グループで読書会を行う。 次のテーマで交流を進める。 レギュラーメニュー 印象に残った場面 気になる言葉 好きな登場人物／気になる人物 スペシャルメニュー 各グループで決めたテーマ ※途中、15分後にインターバルを置く。 ①司会・記録者ここで交代する。 ②「置き手紙」を開いてみる。 ③今の交流の状況を振り返る。 話合いの参加状況は？ 深まるテーマになりそうか？ テーマを変える必要はあるか？	【対話・協働（対話の場づくり）】 ・スペシャルメニューで考えたテーマは、メニューボードに書いて掲示しておく。 ・司会者が円滑に進行できるように「司会の切り札」を用意しておく。 ・話し合う話題が無くなってきたら「面白く読むワザ」のカードを参考にしてみる。 ・授業者は状況を見極め、適宜グループに介入する。話合いの力量に応じて、介入するバランスに気をつける。 「今話しているテーマはなんだっけ？」 「この話題で深まっていきそう？」 「〇〇さんの意見は聞いてみた？」 「それは〇〇ページに書いてありますね、確認してみたら」 「……というテーマは面白いね、……という角度からも考えられそうですが、どうですか？」
省察	○最後の10分で「置き手紙」を書いて、話合いを振り返る。	・手紙の内容は、「このテーマで話し合って、こんな考えが出て、ここまで深まった」とする。

（3）本時の評価

読書会で他の人の感想を引き出し合っている。他の感想に触れ、お互いの読みが深まっている。

〔参考・引用文献〕

秋田喜代美・庄司一幸（2005）編著『本を通して世界と出会う：中高生からの読書コミュニティづくり』北大路出版

有元秀文（2010）『「PISA型読解力」の弱点を克服する「ブッククラブ」入門』明治図書

吉田新一郎（2011）『「読む力」はこうしてつける』新評論

※なお、1年時の取り組みについては以下が詳しい。（午後の協議会で配布します）

渡邊光輝・奥山文子（2017）『ブックカフェ（読書会）をつくる～学校図書館と国語科授業の「二つの読書会」における挑戦とその課題～』（お茶の水女子大学附属中学校紀要 第46集）・渡邊光輝（2017）『一冊の本を読むプロセスを支援する授業の開発～「お茶中ブックカフェ（読書会）」の立ち上げからリデザインへ～』『国語教育実践理論研究会 第57回大会 発表資料』

公開研授業についてのQ & A

授業の補足説明を渡辺（国語科教諭）と奥山（学校司書）で分担して書きました。

A 準備について

Q1 学校司書と国語科教諭はどのような役割分担で授業を行っていますか？

国語科教員は渡辺が、単元計画や具体的な生徒に対する指導、支援を、学校司書の奥山は主に課題本の原案のリストアップ、貸し出し、ブックトークをしました。また、読書会当日の話し合いの支援は二人で分担して行っています。授業の相談や課題本をどう読むかなどについての話し合いは随時行っています。（渡）

Q2 本をどうやって購入しましたか？

学校の図書費ではなく、渡辺の個人的な研究費で購入し、学校図書館に蔵書として寄贈しました。一回使って終わりではなく、中1～中3まで読むことができるような本を購入するようにしました。1 タイトル20冊、8タイトルの本を揃えました。（120人の学年で160冊）（渡）

Q3 課題本はどうやって選びましたか？

今回の読書会では、文庫本という制限がありましたので、岩波少年文庫、福音館文庫、各出版社の文庫目録から探しました。ロングセラー（長く読み継がれてきた本）、外国文学、日本文学、主人公が中学生くらいの男女、ファンタジー、リアリズムなどから幅広く選んだつもりです。また、読書が苦手な生徒のことも考慮して、読みやすい本も選定しました。（奥）

Q4 学校図書館の日頃の活動は？この読書会に関連した取り組みはありますか？

長期休業前に「おすすめ本」のリスト発行、年に1回先生のイチオシ本の発行、館内に展示コーナー多数、ライブラリービンゴ、年に3回放課後ブックカフェを実施しています。（奥）

Q5 読書会をしてみて、生徒の読書はどのように変化したと感じますか？

【カウンターで気づいた生徒の変化】

『モモ』を読んだ生徒が、面白かったので、エンデの『はてしない物語』を読みたいと言う申し出がありました。また、これまで2年間借りられなかった『影との戦い』の続編が借りられました。自分の課題本を読み終わったので他の課題本を読みたいと言ってきた生徒が多数います。このように、生徒の読書の幅が広がった様子が見られました。去年は『ぼくらのサイターの夏』、今年は『穴』を読んだ生徒が続編に手を伸ばすなど、生徒の成長する姿が見られました。一方『モモ』は両親も読んでいて、家族で『モモ』について話をしたという生徒がいて、ロングセラーを課題本にすることの価値にも気づきました。（奥）

Q6 一番人気の本は何でしたか？

『宇宙のみなしご』が一番人気で、120人中80人が希望しています。森絵都という人気の作家であること、内容が身近なこと、薄くて読みやすそうという理由が考えられます。

それに続いて『ゲド戦記』『あと少し、もう

少し』が65人の希望者でした。アンケートで第一から第三希望まで希望をとり、最終的に教師がメンバーを調整し、各クラス3～4名になるようにしました。（渡）

B 授業について

Q7 この授業は学習指導要領のどの指導事項に対応していますか？

○現行学習指導事項の下記に対応しています。

2年C「読むこと」

イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。

○新しい学習指導要領では、以下の指導事項を念頭に置いています。（2年 C 読むこと）

ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、…

…登場人物の設定の仕方などを捉えること。

イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら…

…登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。（渡）

Q8 教科書教材の読解・鑑賞の授業と、この読書会の授業はどう違いますか？

一番大きな違いは、課題本を複数の選択肢の中から選ぶことができること、作品の規模が中長編と大きいことです。

それ以外に、学習の形態が多少異なります。教科書の授業では、この教材はこの指導事項でというように、かなり限定し、活動も指定することが多いです。読書会では、この指導事項でというより、自分で選んだ読み方を活用していくことがメインとなります。また、話し合うテーマも自分たちで決め、自分たちで進行する点も異なります。ただし、教科書を使った授業でも、ある程度読書会と同じ展開で学習することは可能です。（渡）

Q9 本を読んでおしゃべりすることが読む力につながっているのでしょうか。精読しないと力がつかないのでは？

何を持って「読む力」ととらえるかにもよります。読書会で取り上げている100ページ以上の文量の小説を読み切るだけでも、相当の「読む力」は必要となると思います。

ただし、読書会のような活動で必要となる読み方は、教科書教材の短編小説を読む読み方とは様々な点で異なっています。多くの文量のなかから、ポイントを的確に押さえて展開をつかむ力、複数の叙述を重ね合わせて登場人物の人物像をイメージする力、そこから生まれた解釈を他の人に伝え合う力などが必要になってきます。その規模が、短編小説とは比較にならないぐらい複雑で多岐にわたる点が異なります。反対に、教科書教材の短編では、きわめて少ない叙述から、読み手が想像力で行間を補い、解釈をする点に特徴があると考えられます。（渡）

**Q10 本を読まない生徒はいませんでしたか？
どうやって支援しましたか？**

本を読まない読書会は成立しないので、とにかく全員が読み終わることができるように支援しました。夏休み前から貸し出しをはじめ、事前に三時間集中して読書の時間をとり、中間テストで簡単なあらすじをきく問題を出題したり、毎時間、生徒にふり返りを記入させ、そこから読書の進捗状況を点検し、滞っている生徒に声をかけたりと配慮しました。(渡)

Q11 課題本を決めることの功罪は？自分が選んだ本を自由に読ませるべきでは？

自分の好みに合わない本を読んでいるという可能性があります。しかし、普段手を伸ばしにくい読み応えのある本、しかも司書、教師の選りすぐりの一冊に触れ、選書の幅を広げることができる機会であるともいえます。また、同じ本を読んだ人と感想を交流し合い、自分とは違うものの見方や読み方と触れることのできる経験も得がたいものがあります。(渡)

Q12 評価はどうしますか？

生徒の活動状況を随時捉える評価と、最終的に成績を付ける評価とに分けてお話しします。

○生徒の活動状況を捉える評価では、次の点を見て、支援するようにしています。

- ①本を自力で読み進めることができるように様子を見守り、気になる子には声をかける。
 - ②お互いの感想を傾聴し合う関わりになっているか様子を見て、適宜介入する。
 - ③互いの読みを足がかりにして深めていくことができるよう、話し合いのやりとりをみる。
- 最終的に成績を付けるための評価は、とくに次を念入りに見る予定です。

- ①「1枚ポートフォリオ」のまとめをみて、読む観点がどの程度豊かになっているかみる。
- ②「置き手紙」をみて、読書会の対話が深め合うことができているかをみる。
- ③「事後のレポート」を見て、読書会で作品の魅力に迫ることができているかをみる。(渡)

C 他の学校で実践するために

Q13 本を買う予算がなかったり、人数分揃わなかったりする場合はどうしたらいいでしょう。

各自で文庫本を購入させる、古本で安価に買い集める、公共図書館で借りるなどの方法があると思います。(公共図書館は副本では貸し出さないところが多いので、学校向けに10~20冊程度まとめて貸し出すシステムがあると、もっと読書会が広まるのと思います。)

また、将来的に、一人一台端末環境になれば、読書もデジタル書籍で読むことができるようになります。そうすれば、一気に読書会などの学習が行いやすくなると思います。(渡)

Q14 教科書が終わらないので、読書会をしている余裕がありません。

教科書の学習は軽めに扱い、捻出した時間で

読書会を取り上げています。国語教育で何を大切にしたいか考えたとき、「一冊の本をみんなで読み、語り合う」という読書会の経験を、教科書だけを計画どおりみっちり取り組むことよりも大切にしようと思いました。

大人の読書には「教科書」はありません。読みたい本は自分で見つけ、面白かった本は仲間を募って読書会を開く。そんな大人に、この授業を受けた生徒たちになって欲しいと思っています。(渡)

Q15 生徒はあまり本を読まないのに、読書会はできそうにありません。

この授業だけでなく、年間を通して本を読むことや、図書館で授業をすることを当たり前にしてきました。授業の毎時間10分の読書タイムや読書活動などに継続的に取り組み、読書が中学校生活の一部になるように意識しました。

そのような読書習慣が十分でない場合は、まずは絵本などの軽めの題材から読書会で取り上げると良いのではと思います。(渡)

Q16 中学生に読ませたいおすすめ本をどうやって探せばいいですか？

『物語の森へ 児童図書館基本蔵書目録2』(東京子ども図書館、2017年)がお薦めです。他にも様々なリストがあります。司書に相談してください。(奥)

Q17 学校図書館で行っている読書会の取り組みで、参考になる資料は他にありますか？

この授業に先行して、昨年度一年生で取り組んだ読書会の実践と、学校図書館で実施した読書会の取り組みについて、下記に詳しくレポートしています。是非お読みください。(渡)

- ①渡邊光輝・奥山文子(2017)『ブックカフェ(読書会)をつくる~学校図書館と国語科授業の「二つの読書会」における挑戦とその課題~』(お茶の水女子大学附属中学校紀要 第46集)



<https://goo.gl/FuV1DC>

学校図書館と国語科の授業で実施したブックカフェ(読書会)の立ち上げについての記録です。読書会をつくるためにどんなことに配慮し、どのような結果になったか記録しました。

- ②渡邊光輝(2017)『一冊の本を読むプロセスを支援する授業の開発~「お茶中ブックカフェ(読書会)」の立ち上げからリデザインへ~』(「国語教育実践理論研究会 第57回大会発表資料」)



<https://goo.gl/9kRtWA>

- ①よりもさらに詳細に、読書会の発話プロトコル等を取りあげ、分析したものです。

そのほかご質問があれば、下記までどうぞ。

渡邊光輝 (watanabe.koki@ocha.ac.jp)

奥山文子 (okuyama.fumiko@ocha.ac.jp)

